

# 医療における情報(薬剤)の 標準化を考える

医療データ活用基盤整備機構

折井孝男

## 医療における医薬品コード②

医薬品には様々なコードが存在する。本連載でも取り上げてきたが、今回はレセプト電算処理システム用コード、GTINコード、HOTコード

に関する。薬価基準収載品が対象で、非保険薬には付与されない。

◇GTINコード(G

lobal Trade Item Number)

◇HOT番号

はGTIN・13、販売包装単位および元梱包包装単位はGTIN・14が使

用される。これは、バーコード(GSIデータバー、GS1-128gなど)として、取り違え防止、トレーサビリティ確保としても広く利用されている。

医療用医薬品が対象に付与された各医薬品コードを、横断的に対応付けて管理するための13桁の分類コードである。

厚生労働省の標準規格とされており、MEDIS・DC(医療情報システム開発センター)が管理している。薬価基準収載医薬品コード、個別医薬品コード(YJコード)、レセプト電算処理システム用コード、GT

についてもう少し深掘りして説明する。

◇レセプト電算処理システム用コード(支払基金コード)

医療機関が審査支払機関に電子レセプトを提出する際に使用する9桁の分類コードである。医療費を請求する際に使用さ

れるため、薬価基準収載品が対象で、非保険薬には付与されない。

◇GTINコード(G

lobal Trade Item Number)

はGTIN・13、販売包装単位および元梱包包装単位はGTIN・14が使

用される。これは、バーコード(GSIデータバー、GS1-128gなど)として、取り違え防止、トレーサビリティ確保としても広く利用されている。

医療用医薬品が対象に付与された各医薬品コードを、横断的に対応付けて管理するための13桁の分類コードである。

◇HOT番号

医療用医薬品が対象に付与された各医薬品コードを、横断的に対応付けて管理するための13桁の分類コードである。

厚生労働省の標準規格とされており、MEDIS・DC(医療情報システム開発センター)が管理している。薬価基準収載医薬品コード、個別医薬品コード(YJコード)、レセプト電算処理システム用コード、GT

INコードを相互に対応付ける。医薬品コードの解説については、医薬品情報標準化協議会の寺内恭平氏の協力を得た。

表1 レセプト電算処理システム用コード(支払基金コード)構成

(例) ロキソニン錠60mgの場合

6 20098801

① ②

- ①：医薬品は6で固定  
②：医薬品毎に一意な番号

表2 GTINコード構成

(例) ロキソニン錠60mgの場合

1 49 87081 10540 0

① ② ③ ④ ⑤

- ①：包装単位を識別  
0：調剤包装単位：PTP等の最小包装単位  
1：販売包装単位：販売業者等から医療機関等に販売される最小の包装単位  
②：国(45あるいは49)日本  
③：GS1事業者コード(②と合わせて呼ぶ場合もある)  
④：商品アイテムコード  
⑤：チェックディジット

表3 HOT番号構成

(例) ロキソニン錠60mg (PTP10T×10)の場合

1009880 01 02 04

① ② ③ ④

- ①：処方用  
②：会社識別用  
③：調剤用  
④：物流用

表3の①から④を組み合わせることで各医薬品コードとの対応を表現する。

構成	種類	対応する医薬品コード
①	HOT7	薬価基準収載医薬品コード
①+②	HOT9	個別医薬品コード(YJ)あるいはレセプト電算処理システム用コード
①+②+③	HOT11	GTINコード(調剤包装単位)
①+②+③+④	HOT13	GTINコード(販売包装単位)